

平成 25 年度事業報告

公益財団法人 小堀遠州顕彰会

(1) 茶会

(イ) 遠州忌茶会

平成 25 年 5 月 11 日(土)京都・大徳寺塔頭孤篷庵(小堀遠州公菩提寺・重要文化財保護建造物)を開放して開催した。午前 9 時、同庵本堂における遠州茶道宗家 13 世小堀宗実家元の供茶に始まり、法要を営み且つ、山雲床席において的庵・小河宗謙氏が濃茶席を、また、忘筌席においては名古屋世話人・野崎洋二氏が薄茶席を、其心庵では小堀宗実家元が薄茶席をそれぞれ担当し、遠州公ゆかりの道具が展観され盛況であった。これに先立ち 10 日(金)に理事会と評議員会を京都木屋町・たん熊本家において開催し、平成 24 年度事業報告及び同収支決算報告、並びに平成 25 年度事業計画及び同年予算について審議し、原案通り承認を得た。

(ロ) 御自影天神供養茶会(天神茶会)

平成 26 年 2 月 25 日(火)遠州茶道宗家(東京都新宿区若宮町)において、遠州公の信仰深かった御自影天神を供養する茶会を開催し、濃茶席を永坂正行氏、薄茶席を小堀宗実家元が釜をかけ、遠州公ゆかりの道具を展観した。

(ハ) 小堀遠州の世界 2013

平成 25 年 11 月 10 日(日)に開催された岡山県高梁市の高梁再発見事業「小堀遠州の世界 2013」を後援し、小堀遠州の庭園を有する頼久寺にて、茶会を行い、その遺徳を広く一般に紹介した。

(2) 展覧会

平成 26 年 3 月 9 日(日)に東京美術倶楽部重文展示室において、小堀遠州ゆかりの茶道具を展観した。

(3) 講演会

(イ) 平成 25 年 10 月 14 日(月・祝)江戸東京博物館 学習室において、第 8 回秋季講演会を開催した。講師は、三重大学教育学部長 藤田達生氏で、テーマは「小堀遠州と藤堂高虎～寛永文化の源流～」で、小堀遠州という才能を育んだ時代背景や人間関係についての講演をいただいた。また「天霽」35 号には寄稿文「泉州と遠州～人脈論の可能性～」を頂き掲載した。

(ロ) 平成 26 年 3 月 23 日(日)にニッショーホールにおいて、第 27 回公開討論会を開催した。講師は池内克哉監事・熊倉功夫理事・林屋晴三常務理事・小堀正晴理事長。テーマは「懐石と菓子」。当日は多くの会員が参会し、講師による討論に熱心に耳を傾けた。

(4) 刊行事業

これまでに発行した『小堀遠州の書状』（平成14年5月1日発行）・『続 小堀遠州の書状』（平成18年1月14日発行)に続き、第三集を発行する為、資料を収集し編集をすすめている。

(5) 会報の発行

会報『天霽（てんせい）』35号を発行し、会員に配布した。

(6) 成趣庵の公開

成趣庵の茶室・露地を公開して茶会を開催し、小堀遠州より繋がる建築・造園の美意識を顕彰し、紹介した。

(7) 文化交流

(イ) 日本・シンガポール親善文化交流

シンガポール国立大学日本研究学科において、毎月茶道教室を開催し、遠州の茶道を紹介した。

(ロ) 日本・オランダ親善文化交流

本年も引き続き日蘭文化交流を継続した。

(8) 茶道指導

小堀正晴理事長により広く一般を対象として、遠州の茶道の指導を行った。

(9) その他

(イ) 石川県野田山 小堀遠州一族遺跡保存

金沢市にある小堀遠州一族墓所(小堀孫兵衛と小堀新十郎の墓)の維持管理を目的とする小堀遠州一族遺跡保存会に対し寄付を行った。

(ロ) 役員構成の見直し

役員編成を一部見直した。

退任

理事 野崎洋二氏 戸田博氏

(ハ) 財団移行について

行政書士法人芝トラストと協業し、公益財団法人移行作業を行った。

平成 26 年 02 月 14 日の公益認定諮問委員会の審議を経て、平成 26 年 04 月 01 日付にて公益財団法人として認定された。

以上が平成 25 年度における当財団の事業報告の大要である。